



八期オンライン日記第77号(9月号) 2023年9月1日~30日

8月号オンライン通信に対する返信より。

○西山 8月31日 20:10



いつものことながら 大石さん ご苦労様 そしてありがとうございます。

玉龍卒の中でかくのごとき素晴らしい交流の場を持つ OB、特に木佐貫さんのように一桁OBには稀有のことでしょう。

大石さん 今月の編集前記もなかなかいいですね

可愛いうさちゃんが過ぎてもしっかりすることはありません

みなさまお待ちかねの玉龍の龍が後を引き受けます

辰年、結構多いですよ！

あれから早や2カ月が過ぎ去りましたが、永野和代さんが玉龍時代は

女子高にいたみたいであったが、今になって共学であったことを感じているという言葉は印象的でした。女性の方々の参加をお待ちしております。

思い起こせば14年前、東京上野の韻松亭で同期会を行ったとき、彰義隊との戦争について小冊子を作成しました。確か角洋子さんであったと思いますが、間違っていたらごめんなさい。歴史には男性しか登場しないので好きではなかったが小冊子を読んで、面白かったとの感想をいただきました。



6月28日、35度を越える炎天下で、喘ぎ喘ぎ歩いた皇居東御苑、本丸、二の丸、大奥もない、天守閣はなく天守台だけ、なぜ天守閣を再建しなかったのか、いろいろなお話がありますが現地を訪れたインパクトは決して小さなものではありません。

日本のお城の美しさは天守閣だけではありません、化粧を施された石もあります。石垣の美しさが、城の美しさもあります。

日比谷公園松本楼に玉龍八期会の標識を掲げた都心とは思われない静かで緑に囲まれた涼しい部屋での会食は、炎天下の歩行を忘れさせてくれました。

皇居東御苑を訪れた後、大石さんは一人寂しくというか勇躍というか東北・道南を訪れました。ネットで観ることができる場所ばかりですが、現地を訪れて感じられたことと思われることは格別であったと思います。

後10年は元気でいたい、できれば100歳という年を迎えてみたいというかたは、歴史への関心を深め、できれば毎日10分間は猿来(さるき)しましょう。

○隈元 20:30



毎月欠かさず八期会の1ヶ月をまとめていただき、ありがとうございます。

大石くんの言うようにここに登場する八期生は何とか健康寿命を保っているわけで同慶の至りです。

しかし、これからは本当に油断の出来ない年齢に入ってきますね。お互い自分の健康維持に努めましょう。

1ヶ月というのはあっという間に過ぎてしまいますが、こうして大石くんがまとめて送ってくれると、その短い間にいろいろなことがあるものだとつくづく思います。

妹家族の「オセモコ」も取り上げてもらってありがとうございます。

私も最近では体調が良くなりました。あいからず体重は増えませんがね。

秋に向けてあれもしたい、これもしたいと頭だけが回転しています。

○大石です。

いつも後になって思い出します。



辰年(1.2.3月)生まれの八期生のみなさんゴメンなさい😞何かいい書き方教えてください。

そもそも学年が四月から翌年3月にまたがっていることを忘れてしまいます。気をつけたいと思います。

今年も何名かの八期生をLINE八期に勧誘出来ました。木佐貫さんもこの2年ほどLINE逃げていましたけど先日の城山同窓会でやっと招待出来ました。

残る大物??は崎元さん、古市さんです。

来年楽しみにしています。



○西山



クマタツさん 元気でね

来年も待っていますよ

残した訪問先があります

残した所がある人、そうでない人もお待ちしております。

○隈元



西山さん

ありがとうございます。

よろしくお願いします。

そうですね。東京を始め何回か行ったところでも日本中未踏の地だらけです。

元気なうちに頭だけ先行させずにいろいろなところに行ってみたいです。

○西山 9月1日 7:51

おはようございます。

干支によって、ああ〜だ こお〜だと言ひ合うのは

言葉の遊びとして楽しいものです

それぞれ自分の干支にまつわる楽しい話をしましょう

崎元さん 古市さん 大石さんが 積極参加を要請しています

そろそろ気軽に いかがでしょうか....

○西山 9月1日



おはようございます。

老け込むには、まだ早い今日この頃の年頃です

ウィーンに出かける同期もいるほどです

年明け早々にでも、東京散策のプランを作ります

今の内から準備をお願いします。

大石さんには、また1人旅で、現地レポーターをよろしくお願いします。

以上31日方1日の間(オンライン日記8月号に紐ついて...)大石

9月2日

○You Tube「邪馬台国南九州説」アップロードのお知らせ



皆様、

残暑が厳しい中でも、朝夕は少し涼しさを感じる今日この頃ですが、ご健勝の事と存じます。さて、私が先日、「鹿児島史談会」と「邪馬台国 in 南九州を探究する会」で講演しました内容を、

少し改定しましたものを、下記のように You Tube にアップロードしました。

全体の題名は、「記・紀により、封印された邪馬台国と葬られた出雲の国が、今、蘇える」で、内容が長編にならざるを得ず、3部構成です。また、ナレーターが私本人ですので、聞き苦しい所も多々あるかと思いますが、そこは飛ばして大筋でも分かって頂ければ、この上もなく幸いです。

(感想を、私個人宛；e-mail：hr-hamada@hiz.bbiq.jp —この You Tube の質問欄ではなく—にお送り頂ければ、さらに幸甚です)

宜しくお願い申し上げます。

令和5年9月2日

濱田博文

リンクは以下の通りです。

邪馬台国南九州説パート1：帯方郡から邪馬台国までの行程

<https://youtu.be/tnfXzZzGNuw>

邪馬台国南九州説パート2：出雲の国と邪馬台国

<https://youtu.be/qTypLnafzww>

邪馬台国南九州説パート3：出雲と邪馬台国の大同団結＝大和王朝の誕生

<https://youtu.be/gNMz5CTjVgg>

...

○編集人 大石が興味があって受けている講座【邪馬台国・鹿児島説】の濱田博文さんからのおすすめです。

大石が何度か聴きに行く歴史(古代)講演会の主宰者濱田博文さんが YouTube に動画をアップされました。興味のある方はどうぞご覧いただければ

○西山9月2日



情報ありがとうございます。

少し見ましたが、

当然のことでしょうが、詳細にして長いようですので時間をとってじっくり見たいと思います。

魏志倭人伝は、面白く読みました

「我が国は」言ったのが「倭国は」と聞き取られたか

邪馬台国は北九州であったと思います。

卑弥呼は渡来人で、北九州の気候風土を気に入っていたでしょう。

○大石ケイジの奥羽スケッチ函館⑧ 9日4日

<https://youtu.be/RNTrzGUWgSk?si=s53Rjspp53wsK9sm>

函館②は普通の函館の観光名所めぐりでした。



本当に興味があったのは新しく世界遺産の登録が決定した縄文時代の遺跡群である『大船遺跡』に行ってみたかった。



現地が遠すぎてタクシーでも1時間はかかる
と運転手さんの話、ネットで調べてもバスの便
も余りな

い。なので断念しました!

おまけに旅が進むにつれ(自分の気持ちがサ
イトシーイング中心になっているの気づかな
い) 八戸でもいい遺跡(是川縄文館の合掌土
偶)などを見損なった。(右)

せっかく東北の旅の主目的に(縄文時代をキーワードに)していながら、いつの間にか、ありふれた観
光地巡り気分になってしまっている、のをひとり旅の為、分からなくなってしまっ
ていた。

この時もホテルのフロント嬢に尋ねたのが落とし穴だった。

「八戸は歴史も景勝地もない街です」とか「お客さんの次の訪問地、下北半島の方
がいっぱい希望に叶

う場所があると思いますよ」・・

あとで、勉強不足を知らされた。

この可愛い土偶(是川縄文館の合掌土偶)に会えなかったのは今でも残念。

でもこの時は夜遅く八戸に着いて、新幹線の駅からホテルのある市街地までタク
シーで40分くらい

とても不便な感覚になっていたのが災いしてしまった。

すっかり愚痴と、余談が長くなってしまったけど、中国大陸で経験した、ひとり旅の癖が戻ってしまったようだ。

何でも誰かに尋ねてしまうクセ。(気ままな旅を・・忘れがち)じっくり観光案内パンフレットを読むことですね! 函館で後悔していることは2つ。

善ちゃんに言われた(市電に乗って街を眺めておいで)をすっかり忘れ近いからすぐタクシーを利用したこと。

もう一つは、疲れていても、トンボロ夜景見学のあと函館の夜の繁華街(本町エリアか大門エリア)をブラブラしな
かったこと。

それでも函館は、このくらいで充分、ぼくの扁桃体に嬉しい思い出として残ったことだろう。

トンボロのような風景、例えば、湘南の江の島、あるいは京都・宮津市の『天の橋立』・・などを訪れたら2023年初
夏の函館山の展望台の石階段に座って、陽が暮れるのを待っている自分の影を思い出すことと思う。

○西山



おはようございます。

クルージング、函館山 楽しく観ました

私が知っている箱館は古くは仕事で度々訪れた約50年前

新しくは家内と訪れた約20年前

すっかり観光環境が整っているのに隔世の感あり

それだけに楽しかったのではないですか!

大石レポーター ありがとうございます。

○木場 4日 15:14

大石さん





奥羽スケッチ 函館⑧ 見ました。

お花 いろいろ見せて頂きましたが アジサイ 満開 7月初め 関西より 遅いように思います。

函館山 山上から 見る トンボロ 夜景 よろしいですね！

函館港 赤レンガ風景 懐かしく 見せて頂きました。近くに 魚市場 海鮮丼 頂いたこと

美味しかったこと 思い出しました。

有難うございました。

○江藤新平

○西山4日 15:46



江藤新平、この人が生き永らえていたら明治の法体制は、

もう少し国民の権利を考慮したものになったはずです。

欧米視察団の留守の間、能吏として、法整備に大活躍をした。

その能力故に、ある意味では葬り去られた。

西南の役までの出来事は、権力闘争であった。

西郷死して、それに終止符が打たれたかと思ったら

大久保まで暗殺され、さほどでもなかった者たちが

権力中枢を占めるようになった。

○大石 16:50



さほどでもなかった人たちが明治の元勳たちですネ。

それぞれ、なにがしか遺産(功績と言われる)を残して、後世に子供たちの偉人伝のモデルになってしまい

ましたが、幕末からの歴史を学んだ人からみたら、まさに「さほどでもない、生き延びてラッキーだった凡人

たち」かもしれません。iPhone から送信

○西山 19:59



明治の歴史は言論統制のもとに作られ、昭和の軍部に継承された。

佐賀の乱は本当に乱であったかどうか、西南の役も蜂起させるように

仕掛けて起こさせた。

栄誉栄華を食りたい輩たちにとって

萩の乱の前原一誠、江藤新平、西郷隆盛などは鬱陶しい存在であったろう。

福沢諭吉、大隈重信は権力闘争の渦の外に去って身の安全を図った。

大体、革命政府で主要な地位を占めているのは真の功労者ではない

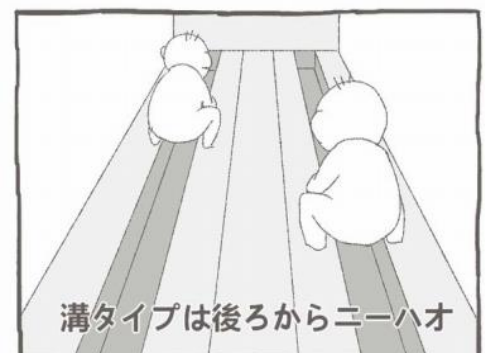
習近平もいわば革命政府のリーダーであるが、それに相応しい実績が

あったかどうか疑わしい。それ故に強硬な対日政策をとっている。

○9月9日 ニーハオトイレ談義 LINE 八期

○大石君に質問です。中国旅行中にこのようなニーハオトイレに遭遇して使用したことがありましたか？(画像)

○ソ連時代のロシアもこげんあったど。鹿児島島のツドコイは扉つき個室じゃったな。臭えはわっぜーかったどん。





下池どんなロシアにも行ったと？

もう60年から昔な。今はキレイなちよっこたっどん。

男女共用じゃろかい？おなごんしゃ男ん尻を見ながらしやっとじゃろな。

○西山



上の水洗トイレは、ギリシャ、ローマスタイル、下の展示場風は防犯のためにでしょうね！日本のように町中に清潔で無料のトイレなんていうのは草あるものじゃないでしょう。

○下池



あつで。日本企業海外進出のお陰様。プーチンどももメー朝こけ並った。男ん尻いを見れば良一出ち淑女さあ達々が評判。

○永野



30年まえ、県のモニターツアーで中国に旅行をしたとき公園に扉のないトイレがありました
旅行者はお互い傘で隠して用を済ませました(下)



実話です

南京のほうでした

○大石



ない(ね)…ニーハオ!とは、コンニチハ♥という意味でしょう。中国は洋式も和式もドアを向いて、しかもドアがあっても(ない場合が多い)開けっ放しで用を足しますので、向かい側はもちろん、用足しに来た他人とも顔合わせしてしまう、つまりニーハオ!!です。思い出した。1回だけ、田舎の観光地で板の上でやったことあった。落ちそうで怖かった。(怖い)(怖い)

○森 通常こういうやつですか？

○西山



40年前、北京の公衆トイレに入ろうとしたら、アンモニアの匂いがドカンと来て中に入れませんでした。どこかに女性用の立ちションのトイレがあったと思

ますが？

○森 写真から

これでしょう

○大石

トilet紙がないので注意⚠️通常こんな綺麗なものはなくて、五カ所あったら3つはてんこ盛り状態。(はて?)

○西山



皆さん、いろいろうちくがありますね(うん)

○森

座布団1枚

○下池



雲蓄 と書き、ウン〇が雲のように溜まることを云います。違った？ 話は変わりますが、鹿児島では古くから話が堕ちに堕ちたら「まーたバカんな話しひんなつ、話や〇ソずい、アーイタヨ、ダレタ」と白け、その場は



流れ解散になったものです。

○東川



朝から臭い話で盛り上がっています。我が国でも災害は往生すると思う。かといって対策はありません。

下池



今日は気分転換に高尚な話題に。トイレとは全く関係ありません。「トラックやらバスはごあんさんど」とチラシが入りました。白髪になってまだおクルマの方、そろそろ世間迷惑やめて社会貢献しませんか？ ナンバー373 白ベンツなんだ値がすそなあ。

○安倍



私が二十数年前だったと思うんですけどエジプトに行きましたその折博物館に行きました時すばらしい展示物に、目を見張りました。ツタンカーメンの財宝その他いろいろなものを見て、博物館内のトイレに行きましたが、

そのあまりの展示物との落差に唖然といたしました。



数千年前にあのように素晴らしいものを作った国が現在の、建物の中の、トイレが本当に汚かったんです。

皆さんのトイレ談義を見てエジプトのことを思い出しました。それより以前に中国には行きましたが、皆さんと同じような思いをいたしました。これは一体どうやって使用したら良いのかと思い悩んだことがあります。

トイレの入り口に立派な青年成年男子が座っていて、入るとまず、使用する紙を渡されて、びっくりしてしまいました。

それにしても日本のトイレは世界一ですよ。

○本田



海外のトイレ談義が盛んですね？！ 5年前、好きなスイス、オーストリアに夫婦で個人旅行しましたがこのホテルのトイレも、シャワートイレで快適でした。

20数年前、娘のサンフランシスコでの結婚式を機会に、2週間余り、アメリカ、カナダなど巡り益しましませんが、ニューヨークのホテルだつて、シャワートイレはなかったですね！

今だって、海外のホテルでも、よく見ると、日本製のトイレを見かけます。やはり、トイレは、日本が一番ですね？！

○安倍



大石さんおはようございます。私はiPadで音声入力をしております。なんだか文章と文章の間に句読点をつけたり、終わり終わりの0をつけたりすることが、なかなか慣れません。とても皆さんは、読みづらいと思います。

右手骨折をしてから、とても重宝いたしました。

ウィーンには、9月の25日から行きます。

○和枝



安倍さんおはよう御座います♪ スマホのセンチンを走っていますね、すごい流石安倍さん ウィーン素晴らしい あちらの情報お聞かせください^o^ お身体をたいせつに



○八期 LINE より『ボンタンアメ談義』 9月9日

○南国名物沖縄みやげに貰ったものの、小さい頃は鹿児島島の坂上文旦堂だったような？ おっ取られたか？ 兄弟菓子の兵六餅はH話を切り抜けて繁盛したらしいですね。

○下池さんまた昔の話し 大龍小6年生の時遠足がありおばあちゃんとおやつ買いに行ったとき ひよ六餅を買うとねだったら？お尻丸出しだからダメだって言われました。



あのときからはこの絵はかわっていないですよ

○こう言っっては少し僭越とは思いますが、割とまともな記事だと思います。島津は琉球を通じて明や東南アジアと交易のルートを持っていた。そのルートを通じていろいろな分物、分けても鉄砲の火薬作りに欠かせない硝石を確保するために島津と良好な関係を必要としていた。



○兵六画像入り

黒潮に乗って運ぶと、三河はそれほど遠い国ではなかった。戦国時代に勝利するために最も必要なものは鉛、硫黄、そして硝石であった。薩摩には硫黄もあった。

○遣唐使の時代、中国が日本からの産物で非常に喜ばれたものの1つに硫黄がありました。石火矢に硫黄をかけると、大変な威力がありましたそうです。



○わあ～懐かしい！ ボンタンアメも兵六餅も昔ながらの商標で、生き残っていたんですね、子供の頃何よりのご褒美でおやつでした。(白黒さん)

○とがわさん



先日上野公園に集合したとき、**森さんにボンタンアメと兵六餅を手土産として頂きました。**中身はおいしく食べました！！ 外箱は保管しています。改めて外箱を見たらボンタンアメの製造元はセイカ食品株鹿児島

市(飴)唐湊4丁目4番5号と読めました。平六餅については永野さんご指摘の通りお尻丸見えでした。よく見ると禪をしめて筋肉質の中年町民に見えました。七言律詩の意匠登録を 転載します。五百年來世上人 見來皆是野狐身 鐘聲不破夜半夢 平六爭知無意真

○西山くん



私も森好子さんからボンタンアメと兵六餅をいただきました。セイカ食品は、昔鴨池小学校のそばにありました。風向きによって甘い香りが教室に流れてきました。

ボンタンアメ大正14年発売と言う事ですから、あと2年ほどで100年と言うことになります。

○9月9日 大石



佐倉市は街が冠水してますね。

線状降水帯でやられましたね。

家は大丈夫ですか？

千葉の皆さま、今からまだひどくなりそうですね。ご用心！！

○大石さん お気遣いありがとうございます。お陰様で全く被害なしでした。むしろ久々に雨が降った分、樹木や草木にはありがたかったと歓迎でした。



まだ残暑は続きそうですが少し凌ぎやすくなりそうですので、ぼつぼつあちこち出かけたいと思っています。さしあたりコロナ禍の影響で遠のいていた戦艦三笠(横須賀港、小生永久会員)訪問から始める

予定です。

くれぐれもご健勝で。 9月9日(土) 14:36 佐倉市 古市

○9月10日 9:58 西山



老人ホームは恋の宝庫で ある 倉本 聰

少し古い話ですが、面白かったので、共鳴できそうな方々にお送りします。 西山 和宏



2017/04/10

9年ぶりの連ドラで描いた楽しく、幸せな「終活」

長年、脚本家をやっているのと、書いていて楽しい作品と辛い作品があります。今回はとても楽しかった。物語が湿っていないからです。

人間には、「陰」と「陽」の2種類があります。王貞治が「陰」なら長嶋茂雄は「陽」。高倉健が「陰」なら石原裕次郎は「陽」。僕は普段、ドラマを作る時は陰陽2つのタイプの俳優を組み合わせてキャスティングするのですが、なぜか、今回は「陽」の人間ばかりが集まってしまった。結局、人間、齢を重ねると「陽」のタイプが生き残るのかもしれない。

一度だけ撮影現場に行ったところ、明るい雰囲気ですごく笑ってしまいました。皆、トシだから長い台詞が覚えられない。ミッキー・カーチスは、「俺は(台本で)3行以上は無理だから。三行革命なんつって」と言ってカンニングペーパーを貼りまくるし、五月みどりは「私全然覚えられないの」って、泣き付いてくるし。もう僕は現場には行きません。だって、撮影を見ていると何かと文句を言いたくなってしまいますから(笑)。

4月3日スタートのドラマ『やすらぎの郷』(テレビ朝日系)。毎週月曜日～金曜日、午後12時30分～12時50分という時間帯で放映中だ。倉本聰氏(82)にとっては9年ぶりの連続ドラマとなる。

物語の舞台は老人ホーム「やすらぎの郷 La Strada」。映画・テレビ業界を支えた俳優・脚本家・音楽家などの“業界人”しか入居出来ない施設である。厳正な入居資格を満たした老人たちがここに集い、穏やかな人生の終末期を過ごしている。

入居者を演じるのは往年の名優たち。主人公の脚本家・菊村栄を演じる石坂浩二(75)と、大女優・白川冴子に扮する浅丘ルリ子(76)は、2000年の離婚後初共演。脇を固めるのもスターばかりだ。有馬稲子(85)、加賀まりこ(73)、五月みどり(77)、野際陽子(81)、藤竜也(75)、ミッキー・カーチス(78)、八千草薫(86)、山本圭(76).....

ドラマのテーマは「高齢化社会」、そして「生と死」。倉本氏が作品を通して伝えたいこと

とは――。

大人のための“シルバータイム”を書こうと思ったキッカケは、僕の同年輩の友人たちが漏らした「見るテレビ番組がない」という言葉でした。



若い頃にどれだけ無理をした人でも、老いると朝 5 時頃に目が覚めて夜は早く眠るようになります。これはヒトという生き物の本来の生態です。日の出に合わせて起床し、日の入に合わせて就寝する。現代人はどんどん夜に進出していますが、老人になると体内リズムは自然と原点回帰していくわけです。

ところが、朝型生活をする老人たちが見るテレビ番組が今は殆どない。夜は若者向けのおふざけ番組ばかりで見るに堪えない。なぜ、大人の見るドラマがないのか。近年、僕は周りの人々からそういうことを言われていたのです。

確かにその通り。夜がゴールデンなら、朝昼に老人も楽しめる大人のための“シルバータイム”を作ったら良いじゃないか。僕は同輩たちにそんな腹案を話したところ、多くの人が「是非やろうよ」と賛同してくれました。

正直に言って僕の同年代は身体が駄目になりかけている連中が多い。惚けが入りかけている奴も少なくない。だから、今まだ辛うじて元気なうちに、テレビ草創期に意欲を湧かした連中を集めて真剣にテレビドラマを作ろうと考えました。

八千草(薫)さんやルリちゃん(浅丘ルリ子)、(加賀)まりこには当初から相談していましたし、中には「ギャラは無料(ただ)でも良いから出させてくれ」と言ってくれる奴もいた。嬉しかった。そこで、テレビ朝日に話を持ちかけたら、早河洋会長が即断してくれたのです。

“シルバータイム”と銘打っても、『やすらぎの郷』は決して「高齢者のためのドラマ」ではないと僕は考えています。あまりにも「ガキ向け」に作られるようになったドラマを本来のドラマの作り方に戻してあげること。これが僕の狙いです。

まだ駆け出しのシナリオライターだった時代、僕はある先輩にこう言われたものです。

「テレビは映画と違ってお茶の間に置いてあるんだ。茶の間の様子は俺たちには絶対判らない。病人が寝ているかもしれない、赤ん坊が寝ているかもしれない。或いは、夫婦喧嘩の真っ最中かもしれない。だから俺たちはそっと暖簾を開けて『お邪魔します』って小さい声で言いながら入っていかなければいけない。テレビ番組はそういう作り方をしろ――」

あれから半世紀以上経ちました。今のテレビはどうでしょうか。茶の間に誰がいるかも確認せずギャーツと横暴に土足で入っている気がします。ドラマも、バラエティも、情報番組も。茶の間にいる人が観たらどう思うか。それを想像することが、テレビ作りの根本ではないかと僕は考えている。今のテレビはあまりにも子供向けに作りすぎているのです。

そして、今のテレビの最大の問題は、お客さん=視聴者の創造性(クリエイティビティ)を引き下げってしまったことでしょう。

視聴者は僕たちが考えている以上に創造力が豊かです。彼らは自ら想像し、創造したがつている。テレビディレクターなんかよりも遥かに頭が良いのです。

ところが、テレビ局は「分かりやすく! もっと分かりやすく」をモットーに、視聴者を馬鹿にし、舐めた姿勢で番組を作っている。誰にでも分かるように、一番低い水準に合わせたコンテンツ作りをしているから、テレビはつまらなくなっ



しまったのです。これはテレビに限った話ではありません。今ある全てのメディアに共通することでしょう。

様々な技術革新があり、テクニカルな「面白さ」や「派手さ」は昔に比べて格段と進歩しました。ハリウッド映画を見ているとその点には毎度感心します。しかし僕は、昔の映画やドラマにあったはずの「しみりとした感動」や「心を打つストーリー」という、映画やドラマ作りの根源が忘れられつつある気がしてなりません。

そんな想いもあり、僕は死ぬまでにキチンとしたドラマを残したいと考えていた。だから、本作を書くことにしたのです。そして、多くの仲間が集まってくれました。富良野塾にいて、先日芥川賞を取った山下澄人も出ています。受賞の翌日に撮影があって、現場のAD たちがどう接しているか分からず困っていましたが。

出演している役者はほとんど昔から付き合いがある連中です。兵吉(石坂浩二)然り、ルリちゃん然り、まりこ然り。お互い若い頃から、ここでは絶対に言えないあれやこれや知り尽くしている仲です(笑)。

僕は彼らの短所は大体掴んでいる。今回、その短所を脚本に書きました。

齢を重ねることで消える短所もありますが、誰にでも必ず消えない短所や消しきれない短所はあります。「本性」というべきものかもしれません。八千草さんみたいな完全無欠の女性にだって、小さな短所はある。そこをちょこちょこ掘り返して書いてやると面白いのです。そして、短所を持った人同士がぶつかり合って化学反応が起きる。そこにこそ、ドラマは生まれます。

破綻した航空会社の CA が.....

テーマを「老人ホーム」にすることは予(あらかじめ)め決めていました。僕の友人も随分いっぱい入っていますし、今回出演する役者の中にも入居中の方がいます。

実は、このドラマのモチーフにした映画があるんです。フランスのジュリアン・デュヴィヴィエ監督の『旅路の果て』(1939年)。南フランスの養老院に集まった、かつて俳優として脚光を浴びた者たちが、自らの老いを認めず、それ故に悲劇が生まれる、というストーリーの映画です。ここから着想を得ました。

僕たち世代は老人ホームには暗いイメージを抱きがちです。ところが、最近になって漸く「そうでもないよ」という噂が次第に広まってきた。僕の住んでいる富良野でもここ数年ケアハウスなどの施設が一気に建ちました。有り体にいえば、「老人ホームに入ること」が恥ずかしいことではなくなったのでしょうか。老後 1 人になったら自分から率先して入りますと躊躇(ためら)いなく言える時代が来たわけです。

今回、脚本を書くにあたって、僕は色々な老人ホームを訪ね歩きました。何処の施設も驚くほど近代化していました。「介護付きマンション」と呼ぶほうが正しいくらいの質の高さだと思います。

東京にある某鉄道会社系列の老人ホームに行ったときの事です。そこには「コンシェルジュ」と称する女性たちが働いていました。彼女たちは揃いも揃って美人で、礼儀正しく、プロの接客術を身につけています。



僕はあまりにも驚いて、経営者に「一体どうやって彼女たちを採ったのですか」と訊くと、彼女たちは元キャビンアテンダント(CA)だという。かつて日本航空が破綻した時に退職した CA をコンシェルジュとして雇っていたのです。ドラマも同じ設定にしましたが、まさに事実は小説より奇なりですよ。

さらに、老人ホームは「恋の宝庫」であることも判明。

人は、80 歳を過ぎると「第二の恋」に落ちると言いますよね。長年連れ添った夫婦でも、婚時代の愛情に近い感情が再びピュアになって顕れてくる。伴侶を亡くした人も、新たに出会った人に初恋のような純粋な想いを抱く。老人ホームの生活ではそのような恋に落ちる人は少なくないのだとか。

先述したコンシェルジュのいる老人ホームには僕の先輩が入居しています。90 歳近い男ですが、今も毎晩のように銀座に飲みに行っている。耳が遠くなったり、足腰が弱くなったりして、「最近、女がなかなかできねえんだ」とボヤいています。彼の色気は齢を重ねても、決して衰えていきません。

性別を問わず、色気があり、恋愛感情を持てる人は比較的老けないのだと感じます。

彼らは何歳になっても性欲があるといいます。しかし、それ故の苦しみもあるとか。性欲があるのに生理的にできないことへの苦しみです。極めて人間的な悩みですよ。人はそういう気持ちを失った時に初めて「死」を意識するのではないかと僕は考えています。

岸信介の「長生きの秘訣三則」

死と向き合い、受け容れることは人間にとっての究極のテーマと言えます。

9 年前、『風のガーデン』(フジテレビ、2008 年)という北海道を舞台にした終末期の緩和医療をテーマにしたドラマを書きました。その折に取材した専門医と僕は今も文通しています。僕宛の手紙の中で、ある医師がこう綴っていました。

〈死を受け入れるには、自分の死に納得できるかできないかに依るところが多いのではないのでしょうか〉

この言葉は私の胸にグサッと突き刺さっています。自分は現世でやるべきこと、やるべき仕事は精一杯できただろうか。それに対する納得感が持てただろうか。人は死を受け容れる時、そう考えるのでしょう。

例えば近年、健康ブームで多くの人が身体のために煙草を喫(す)いません。健康になって、長生きして、何がしたいか。本当はその目的が大切なのです。僕は 80 歳を過ぎていますが、毎日煙草を 4 箱喫っています。おまけに酒もガバガバ呑む。心臓やら血圧やら数値は悪いけれど、なんとか元気にやっています。そんな生き方に僕は納得しています。自分の人生を納得という観点から説明できる人は果たしてどれだけいるのでしょうか。

その一方で、一旦自分の死に納得してからも尚、生に対する執着、煩悩、そして色気が出てくるのがまた人間の面白さなのだと感じます。



ドラマの中で「やすらぎの郷」に入っている人たちは、皆ある種自分の人生に納得して入居して、人生末期の生活を送っています。死を迎える上でこれ以上なく恵まれた場所も準備されているわけです。

ところが、脚本家が新たに入居してくれば、役者たちは「俺のために良い脚本書いてくれよ」という欲望が出るし、ホン屋自身も一度は筆を折ったのに「書いてやろう」と考える。

結局、人間は「80 歳まで生きられれば十分」と考えていても、82 歳まで生き延びたら「85 歳まで生きられるかな」というスケベ心が出てくるのです。

誰だって人生の最終章にあっても、「あわよくば、もう一花咲かしてやろう」と思う。それは自然なことですよ。

僕自身、もはや「死」自体は、恐れていません。

確かに若い頃、死ぬことは怖かったし、「死んだ後は一体どうなるのか」という宗教的恐怖心を抱いたこともあります。でも今は、自分は富良野の山の中で死に、キツネに肉を食われ、微生物に骨を食われ、己の身体がすべて土に還るだろうと信じている。長い北海道での暮らしの中で、それが自分の死なのだと受け容れています。

死が怖くなくなったのは 80 歳近くになってから。次々と知人が死んでいくからでしょう。

どんなに親しい間柄の人が死んだところで、もう会えない寂しさはあるにしても、若い頃のように悲しくならないし、涙も出ない。一切驚かなくなるんです。

高倉健さんが死んだ時。コマサ(小林正彦元石原プロモーション専務)が死んだ時。そして、先日、渡瀬恒彦が死んだ時——。

「ああ、死んだか……」

只そう思うだけ。慣れてしまったんです、仲間が死んでいくことに。近い将来に必ず僕の番が回ってくる。彼らにその順番が先に来た。只それだけなのです。

岸信介が遺した「老後の長生きの秘訣三則」というのがある。これが実に見事で、僕は実践しています。

「転ぶな、風邪を引くな、義理を欠け」

僕は中でも 3 番目が最も重要だと思っている。だからもう冠婚葬祭には一切出ないようにしています。よほど親しい人には花を贈るか、弔電を書くくらい。一々金を包んだり、葬式に行っていたら身が持ちませんから。

近頃、「終活」という言葉が流行っています。実は僕も去年 1 年間かけて自らの終活を行いました。

遺言も書きましたし、富良野の地に墓も買いました。我が家の墓は東京の多磨霊園にあるのですが、僕は長年棲んだ富良野を終(つい)の棲家になりたい。だから、妻と 2 人で入る墓を元気なうちに買ったわけです。

財産整理は大変でした。現金や目に見える資産は良いほう。物書きのような稼業をやっていると知的財産権が幾らになるかが死んでみないと分からない。テレビの著作権もある。向田邦子さんみたいに死んでから本や作品が沢山売れる場合もあるかもしれない。

でも、橋田壽賀子さんのように、生前から財団を作って後輩たちに賞をあげるほど僕は偉い人間ではない。おまけに僕ら夫婦には子供がない。そんな事情で、誰に何を残すかを細かく決めるのが非常に大変な作業でした。

そこで公証人を立てて整理をしたのですが、その経験がとても面白かった。

昔から付き合いのある某財閥系銀行の本店に行くと、そこには 4、5 人の担当者と公証人が厳かな顔をして待っていました。



その内の 1 人が「一寸大変失礼なご質問をいたしますが、もしも先生より奥様の方が先に亡くなられた場合……」と聞いてきたので、僕が「ああ、それも考えておいてください」なんて言うと、「すみません! では奥様の方の戸籍謄本をご用意いただき……」などとずっと恐縮しているわけです。周囲は皆引き続き厳しい顔。僕に気を遣っているわけです。

失礼なことを言っていないか、と、目の前にいる僕が死んだ後の話をしきりにしているのですから。その厳かな雰囲気は何とも可笑しくて、話を聞いているこっちがプツと吹き出しそうになりました。

後に公証人が手書きで僕の遺言を書いて持ってきて、それを僕の目の前で読み上げてくれました。彼らは全国で 500 人程度しかいないとか。この齢でも知らないことって案外あるのです。

老人だけが暮らすユートピアを作ろう



日本はこれから子供が減り老人が増えて高齢化社会になっていきます。高齢化社会を作ったのは、僕ら自身に他なりません。僕も含め、多くの家庭が子供を作らなかったのですから。今後出てくるであろう社会の歪みの責任は、当然、我々が負わなければいけません。次世代に先送りすることは許されない。

しかし、高齢化社会といっても、アイデア次第では決して悪いことばかりではないと僕は考えています。

カナダの南西部ブリティッシュコロンビア州。その西海岸にバンクーバーアイランドという島があります。治安の良い高級住宅街です。リタイアした人たちがそこに移り住み、新しく家を建てているのです。

人びとは、そこをコツリこう呼んでいます。

「ウェイティング・アイランド」

——老人たちが死ぬことを待っている街。

僕はこういう発想がもっと日本にあっても良いと思います。富良野なんか広くて自然も多いからウェイティング・アイランドにピッタリでしょう。

今、福島では原発から出たゴミの問題が深刻です。安倍首相は「アンダーコントロール」だと言っているけれど、黒いビニール袋が堆(うずたか)く積まれており、何を以て解決と言えるのか全く判らない。黒い袋の塊を永遠に福島にそのまま置いておくのはおかしな話です。

しかし、どの自治体も核廃棄物の受け入れは厭がっています。福島第一原発から出たゴミは、本来ならば関東圏一帯、つまり東電から配電された所の人々が責任を負うもので、福島だけのものではない。特に東京は圧倒的な責任がある。

ならば、次のような案はどうでしょうか。

どこか広大な土地を有する地方自治体にフィンランドの放射性廃棄物最終処分場「オンカロ」のような洞窟を作って、そこに核のゴミを集中させる。そしてその上に、夢のような、80 歳以上の高齢者だけが暮らすユートピアのような街を造る。

高齢者ばかりだから、学校は要らない。その代わりに、国が費用を出して病院や介護施設を充実させる。「やすらぎの郷」のような老人ホームも幾つか建てる——最高のウェイティング・アイランドじゃないですか。

高齢者を 1 カ所にまとめるわけだからサービス効率も良くなるし、皆、幸せに暮らせます。そんな街が出来たら僕は家族を連れてすぐに移住するつもりです。

高齢者がこういう形でこれまでの責任を負うのもアリじゃないでしょうか。この話を同世代の友人とすると盛り上がるんです。ただ、役所はこういう発想を「ご冗談を」と言って一

笑に付すでしょうが、僕は、悠長に笑っていられる時期は長くないような気がするんです。



●9月10日



西山さん

大変面白い読み物として読みました。

倉本聡は1934年12月31日生まれだそうですから、もう89歳で健在のようですね。

テレビドラマ「やすらぎの郷」は何か記憶には残っていますが、当時は見ていませんでした。

今、この年齢になって見ればよかったと思うのは、やはり自分も歳をとり、あの世が現実のものとして身近に感じるようになったせいでしょうか。

再放送でもあれば、必見です。

文中に「82歳になれば、85歳まで生きたい」と願い、「あわよくば、もう一花咲かしてやろう」というようなことを考えるとありますが、それも気力があるから

そういう発想が出てくるわけで、いいことだと思います。人生「欲と二人連れ」と言いますから、元気な証拠でしょう。

残された人生を健康を保ちながら一日でも長く楽しみましょう。

クマタツ

●西山さん



懐かしい 男優、女優さんお名前が たくさん 会ったりして 楽しく 読ませて頂きました。

私共も 平均寿命以上に 長生きしていることになってしまいました。

岸 信介さんの「老後の長生きの秘訣三則」興味を持ちました「転ぶな、風邪を引くな、義理を欠け」意識して過ごしていきたいと

思います。それから そろそろ「終活」の準備にも 入らねば…と言った心境になりました。

(大動脈瘤の治療をはじめて 思い始めました。)

コンシェルジュが JAL キャビンアテンダント 出身の方々が 居られる 老人ホーム よろしいですね！

今、私が 住んでいる 健常者マンション(シニアマンション)に 90才以上方で 要介護2 介護人が 要支援2という夫婦が入居され、

話題となっています。高齢化進んできております。自分も 他人のことは あまり言えない年齢となってきました。

倉本 聡さんの 読み物 メール 頂き ありがとうございます

お互いに お体 お自愛ください。 木場 祥雄

●クマタツさん、木場さん



コメントありがとうございます。

倉本聡も凄いが、田原総一郎は実践者として凄いですよ。

私もドラマは時々切れ切れにしてか観ていません

ドラマ放映中に出演者が亡くなるなど

現実と同時進行のようでした。

何はともあれ、何もなくても、とりあえず長生きといきますか！ 西山和宏

●FW: 若者よ、大久保利通に学べ 9月12日



を読んで、少し憤慨したので下記のメールを

[文藝春秋 mbunshun@bunshun.co.jp](mailto:mbunshun@bunshun.co.jp)宛に送りました。

若者よ、大久保利通に学べ

「空気」より「ファクト」や「論理」で行動すべしとありますが、対談で語られていることは、本当に「ファクト」に基づいているのでしょうか？

対談の冒頭、「幕末明治の歴史は門外漢なので…」とあり、対談相手の著書を読んで「大久保のような化け物がいたからこそ、当時の日本は生きのびることができたのだと改めて感じました。」対談相手への賛辞です。

使節団の年齢を列挙して、「今の政治指導者と比べれば、みんな驚異的に若かった」。当時の平均年齢と今日の平均年齢との比較を怠っている。

「岩倉使節団百五十年」について、盛り上がりには欠けると残念がっていますが、明治四年、懸案の廃藩置県を行い、その国内が治まるかどうかさだかでない状況、新国家の骨組みを作るべく忙しい時期に2年近くも国内を留守にし、急ぐことのない外遊を行った。それが「岩倉使節団」であろう。批判こそあれ、盛り上がりなどあるはずがない。

224 頁;安宅;…ご著書…

「瀧井」:…ご講演…

を見て、流石に育ちのいい人たちだと感じた。

大久保利通が福島県郡山の安積疎水の開通に尽力したことで、「現地では、かつて『大久保神社』があったくらいで…」とありますが、神社として鳥居や社殿もあったのでしょうか？

228 頁

「大久保は、十代の頃に西郷隆盛(ただしくは吉之助)らと集まって朱子学のテキスト『近思録』を読む「会読」を行っていました。いわば読書サークルです。」とある。これは、「郷中」に対する極めて新しい(間違っただけ)説明の仕方です。「郷中」は、その構成・運営において「松下村塾」と比較するのは間違いです。

12月14日、赤穂義士に関する本を徹夜で輪読する会はある。

234 頁

「岩倉使節団の当初の目的は、不平等条約改正でしたが、交渉に失敗してしまう」。

この使節団は、外交交渉に必要な国家元首の信任状を携行していなかった。

そのため、大久保と伊藤博文は、信任状を受け取りに日本に戻った。

戻ってくるまで約5カ月ワシントンに滞在。信任状を持って来ても条約改正の予備交渉にすら入ることができなかった。

最初から外交交渉が目的にしては、岩倉使節団の人数が多すぎる。

この対談の結論として、大久保利通の何が化け物と言うほど素晴らしかったのか語られていない。

大久保が化け物的な腕を振ったのは、官僚として法整備の能力で優れていた江藤新平を佐賀の乱で屠ったときかもしれない。

全般的な印象として雑、準備不足の発言。

<https://mail.google.com/mail/u/0?ui=2&ik=1b3f5184ee&attid=0.1&permmsgid=msg-f:1776792354508758539&th=18a86f3b8a1fde0b&view=att&disp=inline>

● 西山さん



さすがですね。

守備範囲が広いです。

大久保利通の事は古市さんが詳しいと思います。

彼にもこの記事を送ったらどうでしょう。



●9月15日

西山様



グーグルへのアプローチが怠っていて、最近になってやっと、貴兄のご推薦の文芸春秋誌の転載、ありがたく拝読しました。

なべて、この会談趣旨はどこにあるか？と見れば、やはり、大久保賛美の会談誌なのだな？と感じています。

貴兄おっしゃる通り、小生もあの明治維新が多くの志士達の犠牲の上に、ようやく成し遂げられた矢先に、100名もの管理者集団が2年も外遊すること自体、大きな疑問を感じます。

岩倉、大久保、伊藤らは、この明治維新をやり遂げただけで、政治的にはまだ旧藩体制であったにも関わらず、不平等条約交渉に行くんだ、そして、現地の西洋文明を吸収してくるんだ、との彼らの外遊目的で、2年間も日本を留守にしている。

その間、政府に残された西郷、後藤らの留守番の首脳部が、最も困難な「廃藩置県」の事業を任されている。

この「廃藩置県」とは、それまで平安・鎌倉時代から長く長く継続して連綿として定着していた「武家政治」をまるで正反対の「共和政治」体制に実質的に「変換」する事業であり、当時の徳川幕府は「大政奉還」しているが、全国の多くの「藩主」、または「家を基本とする武士社会」への「廃藩」事業は、誠に困難であることは、当時の政情から明らかであるにも関わらず、彼ら使節団は2年間も「外遊三昧」してる。

残された西郷らは、実務的に政権を確立するため、これら藩主に苦難な説得を試みながら、この困難な事業をやり遂げたか？。まさに大久保・岩倉らは承知のはずである。

西郷・後藤などは、明治維新をやり遂げたが、それまでの「武士階級」の者達が、生きてゆくための糧もなくなることとなり、それが最終的には、「佐賀の乱」「西南の役」に発展していったと考えられる。

このお二人の会談の中で論じられている、大久保のその後の内務卿としての、政治改革・地方振興政策などは、日本繁栄に貢献した側面があろう。

伊藤博文などは長らく日本政治のかじ取り役として務め上げたとの印象はあるが、大久保はあのような紀尾井坂での暗殺という最期であったが、多くの反対者も当時いた事実は彼らの施策が受け入れられていないことの証明でもあろう。

最近、鹿児島でも、鹿児島中央駅近くに大久保の銅像が建っているが、我々が高校時代などは、その様な扱いは受けられていなかった。

●「アレ」はいつから始まったかご存じですか？ 9月16日 西山発



トラキチさま

おめでとうございます！

岡田監督は、いつから「アレ」と表現すようになったかご存じでしょうか？岡田監督は、大変な人ですね！ 西山和宏

●じっくり「あれ」の生まれた実話対談読ませていただきました。

岡田監督のこと余り知りませんでした。掛布さんは晴れ顔なので顔が浮かんで来ますが。



…………以下・インタビュー途中から。



インタビュー記事を読んで人格が良く分かりました。好感を持ちました。

有働さんは関西人でしたか？何かのことで鹿児島出身と勘違いしていました。

「アレ」誕生秘話



有働

阪神といえば、野村監督や星野仙一監督から続く伝統というか、上手にマスコミに情報を伝えるところがありますよね。監督は対マスコミについてはいかがですか。

岡田 それはもうマスコミを味方にしないと。コロナ下ではリモートで全然コミュニケーションが取れていなかった。だから今は直接記者を集めて対応していますよ。そうしないと本当の話が通じないからね。

有働 私、新聞購読を電子版に切り替えているんですけど、デイリースポーツだけは紙で取っています。何せ阪神に関する報道姿勢が素晴らしい。監督の

口グセの「おーん」まで正確に記事にしています（笑）。監督の言葉で今一番紙面を席卷しているのが「アレ」ですね。

岡田 優勝のことを「アレ」と言うてね（笑）。

最初に言い出したのはオリックス監督 1 年目の 2010 年なんです。交流戦初優勝を目前にして、選手がガチガチになってしまったん 15 です。優勝という言葉でこれほどプレッシャーがかかるものかと実感してね。「もう優勝と 言うな。アレにしよう」と宣言しました。

有働 アレが生まれたのがオリックス時代とは！

岡田 さすがに当時のオリックスではここまで話題にならなかったですからね。阪神だと何か言うとすぐ話題になるね。おーん。

有働 そうですよね（笑）。最後に今一度、今年の阪神タイガースの目標を伺ってもいい でしょうか。

岡田 目標ですか。

有働 ズバリ目標は？

岡田 目標はやっぱりアレです。アレにしないと話にならないですからね。今日、廣田神社（兵庫県西宮市）への参拝があったんですけど、宮司さんも「アレ」って言ってきて嬉しかったわ。

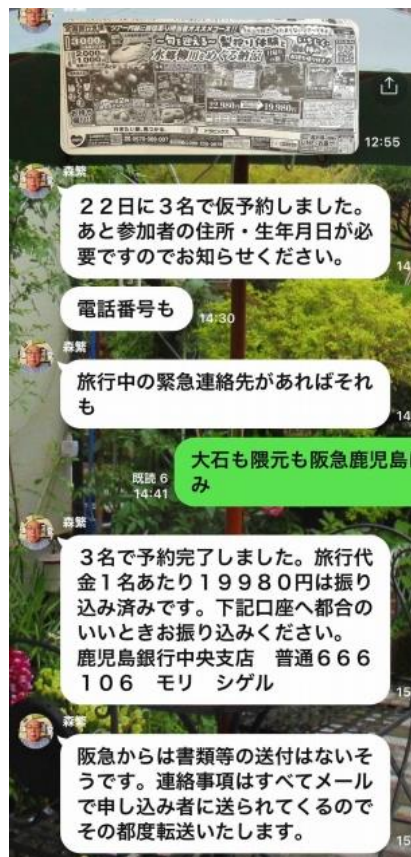
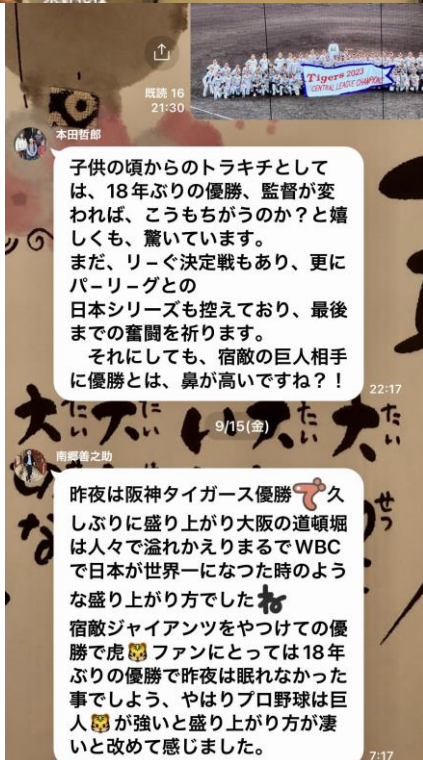
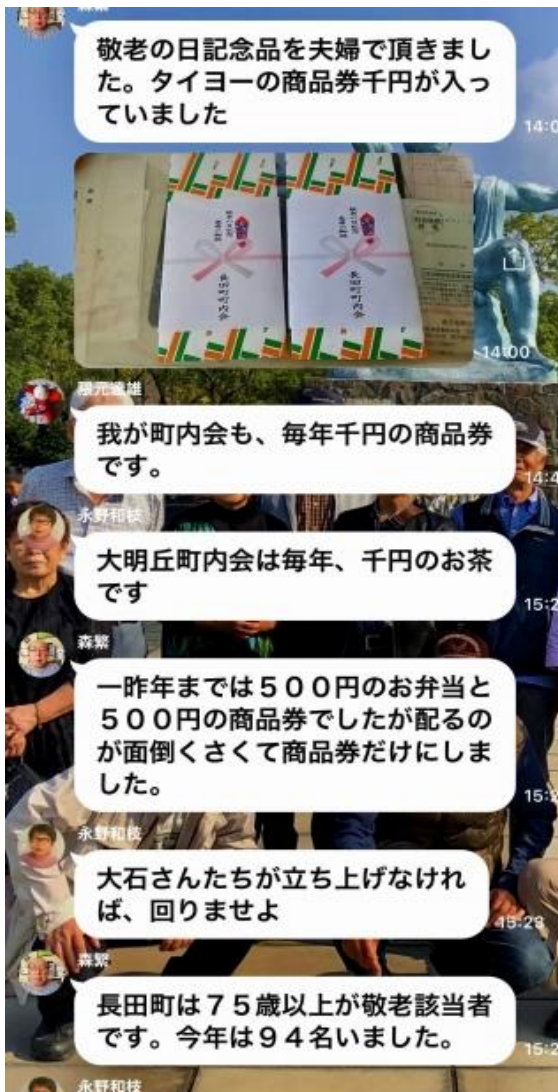
有働 ハハハ。宮司さんまで。

岡田 毎年シーズン開幕前にチームで必勝祈願に伺うんですけどね。今年は宮司さんが最後の挨拶で「アレ」と言うてくれました。

有働 神様には直接的な言葉でお願いした方がいいんじゃないかと思いきや、もはや神様にまで通用するワードになっていた。

岡田 いまのところ関限定ですけどね。でも今年の 9 月以降には、全国版の言葉になっ ていないといけな いですね。

スマホ LINE の 「八期 LINE より」9月前半から



● 八期 LINE(東京歴史グループ)より

○皆さんこんばんは。私(安倍洋子)は奇しくも84歳の誕生日の日に、**ウィーン**へ向かって地上の人となりました。



十数年ぶりに成田に行きましたら、あまりの外国人の多さにびっくりいたしました。

飛行機は、ボーイング777、成田からウィーンへの直行便でしたが満席でその中に日本人が20人から30人ぐらいでした。

ボーイングの乗客数は500人ぐらいだと思いますが、これだけの外国の方が日本の観光に、いらしていることに驚きました。ウィーンの気候は、とても爽やかで長女の自宅でベランダで食事ができました。明日はベルベデーレ宮殿へ、行って参ります。 安倍洋子



○西山:日はまた昇るに期待しましょう。立ち直りは日本の得意とするところです。



ベルベデーレ宮殿の庭園は素晴らしいです。せいぜい楽しんでください。

私は静かに後ろから走ってくる電車にはねられそうになったことがあります。

右側通行と左側通行の違い、分かっていながらうっかりはっとなることがありました。

あなたのことでそんな事はないと思います。ティーハウスの大きなケーキを思い出します。機内でシャンパンとケーキということは、ファーストクラスでないとしても、ビジネスクラスですか？ 季節もよし、ハッピーウィークですね！



○安倍洋子さん ...ウィーンの家族の家のベランダで食事...なんて、最高に素晴らしいことです😊 ぜひぜひ👏スマホ



動画をここに送ってください👉せめて画面で楽しませていただきたいです。帰ってきたら「帰朝ランチ会」開いてください。 大石より

@mfi123 @mfi123 @安倍 洋子 様 はじめまして！ ウィーンに娘さんが自宅をもっておられるとは？！ ベルベデーレ宮殿と共に、シエンブルン宮殿も素晴らしい...ですね？！もうそちらは行った事が、ありますよね？ 私もウィーンが大好きで、過去3回ほど訪れています。3年前は、4日間滞在し、楽友協会ホールやコンチェルトホールなど、2日間も、管弦楽を聴いてきました。音楽家知人がいて、なかなか手に入れられないチケットを取ってくれるため、ありがたい事です。 ウィーンの街、森は、最高ですね～？！

川口芳子



洋子さん、8期の集い、以来です。ウィーン、懐かしく、思います。きもの文化使節団でインスブルック、きものパレード、皇帝舞踏会に参加、懐かしく、新聞、取り出して。訪問した事、思い出します。一。メール、お借りしました！?、。



八期旅仲間のみなさん！ ウィーン(欧州)に思い出があるなんて！素晴らしいことです👍 みなさんのことだから『ちいさな村の物語』イタリア🇮🇹にも行かれた人がいるのでは？ あのテーマミュージックに惹かれます。安倍さん！滞在中行ってらっしゃい。

○"大石ケイジの奥羽スケッチ⑨ 新潟へ向かう車中よりのメモリー2374" を YouTube で見る

<https://youtu.be/2bonidvZJBE?si=CMzVEzqM6HqBrPG7>

添付ファイル エリア

YouTube 動画 大石ケイジの奥羽スケッチ⑨ 新潟へ向かう車中よりのメモリー2374 をプレビュー



旅の楽しみ方は人それぞれである。風光明媚を愉しむひと、その土地の歴史に思いを馳せるひと、

ご当地のグルメや名物に興味を持つひとなど・・・ぼくはどちらかと言うと、歴史型かも知れない。

今回の奥羽の旅も主に3冊の本(決して歴史書ではなく歴史・紀行誌に近いかも知れない)のお世話に

なった。もっともそのうちの1冊(5編になっている)はまだ読み終えていない。

現在、天気予報などと言うところの東北地方は、以前は教科書などでも「奥羽地方」と言っていた

らしい。ぼくなども奥羽派の方かも知れない。そこで今回のタイトルもあえて『奥羽スケッチ』に

した。東北は東が何県？西が何県？と分けないけど、奥羽の奥は(陸奥むつの国)から来ていて、福島、

宮城、岩手・青森の四県のことを言い。羽の方は出羽の国から発していて山形県と秋田県がはいる。

そのどちらかと言うと東西6県を総じて奥羽と言う。よく(みちのく)というコトバが歌謡曲のタイトルなどに使われるがこれは陸奥むつだけではなく感じとしては今流の東北6県含めてのイメージがする。JRの東北本線などに乗って栃木県あたりにさしかかると自分なんかここは既にみちのくの入り口のような気がした。

ところで、その他にもとてもすてきな感じのコトバ『まほろば』がある。ぼくの読んだ三冊の旅の参考



書のひとつ司馬遼太郎・街道をゆく 41『北のまほろば』は青森市内に素晴らしい記念館の名前にもな

っている。まほろばも必ずしも奥羽(みちのく)をさすことばではない。

古事記(712年)日本武尊が詠んだ和歌の中に登場し「すばらしい場所」を意味する古語とのことだが、青森(つがる地方)にふさわしく感じるのはなぜであろう。ところで歴史好きの旅人にとって、奥羽を語る時心たつの人々を浮かべない人はいないのでは？

それは5000年前の縄文時代の人々とアイヌ人たちが活躍した時代です。ぼくの読んだ3冊のうちの1冊は安部龍太郎作品『十三の海鳴り』蝦夷太平記はアイヌ民族の登場する物語です。

ついでにもう1冊のまだ読み終わっていないのは30年ほど前にNHK大河ドラマにもなった高橋克彦作品『炎立つ』です。平安時代前期の朝廷と奥羽の関わりから、鎌倉時代に栄華(中尊寺建立)を極めた奥州藤原氏が滅亡するまでの物語。古代(三内丸山遺跡)中世(十三の海鳴り・炎立つ)近代(戊辰戦争 会藩物語)街道をゆく等がぼくの奥羽スケッチ前半の旅のバックグラウンドたちです。



【編集後記】

すっかり枕詞になってしまいましたが、8月も早かったけど9月の日が経つのはあつという間…という言葉がびったりでした。

振り返ってみると、それなりにいろんなこともあって、通年の9月と何ら変わらないのですが。

最近の八期事情ですが、スマホの『八期LINEグループ』が活発です。

反して、パソコンを媒体にしたメール交換が元気がないようです。本来、LINEなどのSNSはコトバのやりとりを主体とした媒体で、メールのように文章を媒体としたものではないですが、八期LINEの中には文章を上手に利用した仲間が結構います。

わざわざ、パソコンの前で電源を入れて、立ち上がりの遅いパソコンの動作を待つより、瞬時にやり取りできるスマホの方がよほど便利なのが分かったからです。

ただ、LINEなどで気軽にやり取りするコトバは絵で言えばデッサン(下絵)みたいなものなので、文章として書くには以前のFAXには劣ります。

この年…とは年齢のことですが、になって、華であった高校時代の気分で文字を介して瞬時に、時空を超えて語り合える媒体(スマホトーク)があると言うのは素敵なことだと思います。

今書いている「八期オンライン日記」も文中、何か所か【八期LINE】よりとして、3つある【八期LINE】をコピーして掲載しています。

長文によるやり取りや引用紹介などの活用する仲間が少なくなったら記録としての【八期オンライン日記】は幕を閉じることになるかも知れません。

代わりにSNSがなくならない限り、八期生間のやり取りは続くかもしれません。もちろん、永遠と言うことはありませんけど。

今日はスマホ(LINE)とパソコン(Eメール)について考えてみました。

2023・9・30(土)大石

(追) メール(パソコンにある自分の)はスマホでも利用できます。もちろん Gmail でも。

